【短報】オニヒラタシデムシの九州における追加記録

オニヒラタシデムシ *Thanatophilus rugosus*（Linnaeus, 1761）は，日本国内において本州，四国，九州に生息し，九州での記録は，福岡県，宮崎県から記録されているが（日下部，1987），確認されることが比較的少ない種である．本種は一般的に平地から低山地の河川敷に生息することがよく知られているが，ときに標高 1,500 m を超える山地でも確認されるなど生態面で不明な点もある種である（須田ほか，2014）．今回，河川敷とは異なる環境において，以下のように本種を確認しているので報告する．

2 ♂♂，3 ♀♀，大分県竹田町祖母山（山頂付近，標高 1,750 m），23. VII. 2019．足立採集・足立，日下部保管．

いずれの個体も午前 10 ～ 12 時頃を中心に山頂付近を他の昆虫類に混じり飛翔していた個体である．採集した個体以外にも複数の飛翔個体を目撃している．確認場所の山頂付近で発生しているのか，あるいは山麓部から上昇気流に乗って飛来したのかは不明であるが，高標高地で複数個体が確認されたことは興味深い．

末筆ではあるが，本種の群馬県での確認状況などをご教示して頂いた堀口徹氏（群馬県）にお礼申し上げる．

図 1．九州（祖母山）産オニヒラタシデムシ（左：♂；右：♀）．

引用文献

日下部良康 , 1987. 九州におけるオニヒラタシデムシの記録 . 月刊むし , (202) : 26.
須田　亨・堀口　徹 , 2014. 群馬県のシデムシ . 乱舞 , 群馬昆虫学会 , (20) : 7–18.

（足立一夫　811–1354　福岡市南区大平寺 1–47–10–107）
（日下部良康　224–0013　横浜市都筑区すみれが丘 21–12）

【短報】石川県におけるタマキノコムシ亜科 2 種の初記録

石川県におけるタマキノコムシ亜科については渡部・保科（2018）がチェックリストを作成しており，30 種が報告されている．渡部が石川県内で採集した個体を保科が同定した結果，石川県初記録となるタマキノコムシ亜科 2 種が確認されたので報告する．本報告により，石川県から記録された本亜科の種は 32 種となる．

報告に先立ち，一部の採集にご同行いただいた石川県ふれあい昆虫館の福富宏和氏にお礼申し上げる．

ツヤマルタマキノコムシ *Agathidium*（*Agathidium*）*sublaevigatum* Portevin, 1908

1 ♀，石川県白山市尾添楽々新道，22. V. 2019，渡部採集・保科保管（図 1）．

本種は久松（1985）の掲載種なので，各地の目録によくリストアップされている．しかし，久松（1985）に記述された「上翅はほぼ無点刻で会合部小溝を欠く」との形態的特徴はマルタマキノコムシ属（*Agathidium* 属）に普通に見られるものであり，種の識別には全く使えない形質である．各地の目録に登場するツヤマルタマキノコムシは別種が混在している可能性が高い．

ツノマルタマキノコムシ *Agathidium*（*Neoceble*）*cornutum* Portevin, 1927

1 ♂，白山市桑島大嵐山，17. VII. 2019，渡部採集・保科保管（図 2）．

本種の記録は各地の分布記録に登場し，久松（1985）は本州と九州に分布すると記述している．一方で，保科（2000）は九州産の記録はヤマオカオモゴマルタマキノコムシ *Agathidium*（*Neoceble*）*omogoense yamaokai* Hoshina, 2000，本州（関西～関東地方）の記録はギオンマルタマキノコムシ *A.*（*N.*）*funereum* Angelini et De Marzo, 1990 の誤同定である可能性が高いことを指摘した．九州の *Neoceble* 亜属について分類学的検討がなされた Hoshina（2000）でも本種は扱われていない．したがって，国内において本種と正確に同定された記録は Portevin（1927）が記載した信州産（Kumanotaira）のタイプ標本以外に存在しない可能性が高い．

ツノマルタマキノコムシのホロタイプの採集者はガロアムシに名を残すガロアである．ただ，本種の原記載の Portevin（1927）の標本データには採

集者と採集地が記されるのみで，採集年月日は不明だ．

明治時代末，フランス大使館付の通訳だったガロアは東京麹町に居を構え，日本産甲虫を盛んに収集していた（保科, 2019）．そして, Portevin（1908）が記載した日本産タマキノコムシには既にガロア採集品が使われている．よって，ツノマルタマキノコムシのホロタイプもおそらくは 1910 年前後に採集された個体と推察される．つまり，本報告はホロタイプ採集以降，2 例目かつ約 100 年ぶりに国内で発見された記録ということになる．

本種を採集したのはブナ林内のブナの立ち枯れで，地面に近い位置（地上から約 20 cm）の樹皮下に溜まった木屑周辺をスプレーし，落ちてきた個体を採集した．

なお，本稿の写真の 2 標本はいずれも未熟気味の個体であり，本来の背面の色は黒に近いことを付記しておく．

図 1–2．石川県初記録となるタマキノコムシ亜科．1，ツヤマルタマキノコムシ；2，ツノマルタマキノコムシ．

引用文献

久松定成 , 1985. タマキノコムシ科 Leiodidae. p. 233–237, pl. 42. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編 , 原色日本甲虫図鑑 II. 保育社 .

Hoshina, H., 2000. A taxonomic study on the subgenus *Neoceble* (Coleoptera: Leiodidae: *Agathidium*) from Kyushu, Japan. Species Diversity, 5: 59–88.

保科英人 , 2000. 角(つの)を持つタマキノコムシ . ねじればね , (88) : 11–14.

保科英人 , 2019. 明治 40 年代「名和靖日記」. 科学史研究 , 58: 39–55.

Portevin, G., 1908. Quatrième note sur les Nécrophages du Muséum. Bulletin de Museum National d'Histoire Naturelle, Paris, 14: 19–29.

Portevin, G., 1927. Les Liodidae du Japon. Encyclopédie entomologique, Coleoptera, 2: 73–94.

渡部晃平・保科英人 , 2018. 石川県におけるタマキノコムシ亜科の追加記録 . とっくりばち , (86) : 8–10.

（渡部晃平　920–2113　白山市八幡町戌 3 番地
石川県ふれあい昆虫館）
（保科英人　910–8507　福井市文京 3–9–1
福井大学教育学部）

【短報】沖縄島から発見されたウスグロミゾコメツキダマシの記録

ウスグロコメツキダマシ *Poecilochrus japonicus* Fleutiaux は，本州，九州，対馬に生息することが知られる種である（鈴木, 2010）．低標高地に主にみられ，灯火などに良く集まる．筆者は，これまで記録のなかった沖縄島において本種を採集することができたので，記録しておきたい．

Fig. 1. *Poecilochrus japonicus* Fleutiaux collected from Okinawa Island, Japan, ♀.

報告するにあたり，調査地をご案内いただいた松村雅史氏と野林千枝氏に厚くお礼申し上げる．

1 ♀（Fig. 1），沖縄県名護市稲嶺（標高 120-130 m），8. VI. 2019，鈴木亙採集・保管．

雄は未見で，調査することができなかったが，雌個体においては，色彩や体形，触角の形質において本州産の個体との間に大きな差は認められなかった．

引用文献

鈴木　亙 , 2010. 対馬のコメツキダマシ . 甲虫ニュース , (172) : 11–12.

（鈴木　亙　211–0031　川崎市中原区木月大町 6–1
法政大学第二高等学校生物科）